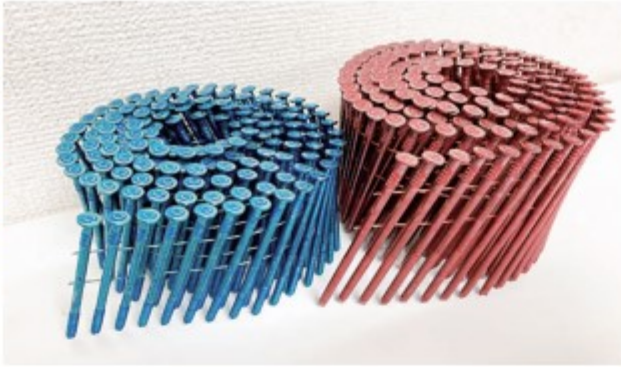


杉の割れ防ぐ「最強釘」

アマテイが独自新製品

釘トップメーカーのアマテイ（佐藤亮社長）は、オリジナル製品「木割れ最強釘Ⅱ杉対応」の販売に力を入れている。ツーバイフォー住宅のみならず、今後増加する非住宅木造建築物での使用にも期待がかかる。SDGsやカーボンニュートラルへの取り組みを後押しする製品として、本格的に販売を進めていく。



SDGsの取り組みを後押しする「木割れ最強釘Ⅱ杉対応」

非住宅木造増で商機

「木割れ最強釘Ⅱ杉対応」は、径や先端形状の工夫に加えて、胴部にリング形状の特殊加工を施すことで、打ち込みに際して杉材を割れにくく、かつ、打ち込み後も抜けにくいよう設計されている。他の木材よりも柔らかく、釘が抜けやすい杉材に対応するため、約1年間の開発期間を経て、業界初となる杉材用C N90・C N75相当性能証明を取得し、昨年11月から販売を開始した。

同社では、2010年から初代「木割れ最強釘」を製造・販売しており、ツーバイフォー工法で主流のSPF材（トウヒ、松、もみぢ）向けに好評を得ている。「木割れ最強釘Ⅱ杉対応」は初代よりも胴の溝にさらなる工夫を加えたことで、杉材への引抜耐力（抜けにく

さ）と曲げ強度の両立を追求。SPF材にも使用でき、工具の使い分けなども不要だ。杉材の活用は、森林資源循環サイクルを促す狙いもある。CO₂を吸収し、酸素を作り出す樹木を植え、育てる循環はカーボンニュートラルの貢献にもつながる。同社では、SDGsへの取り組みに力を入れており、本

社がある兵庫県尼崎市の「あまがさきSDGsパートナー」に登録されている。10月には「尼崎の森中央緑地パークセンター」で「森づくり活動」に参加。社員が緑地内の植物の説明を受け、植樹を体験した。また、同製品は今年4月から兵庫県の「ひょうご新商品」に認定されている。ひょうご新商品調達認定制度は、県内の企業が生産する新規性・独創性のある商品を県が「ひょうご新商品」として認

定し、販路開拓を支援する制度で、より一層の認知度向上が期待できる。近年、国の政策として国産木材の使用が推奨されており、国内の樹木の中で割合が高い杉の木は、住宅建材として利用率を高め、ツーバイフォー住宅向けの需要増が見込まれている。「インパクト強い商品名で、当社独自の製品として、引き合いも多い。PRを強化しながら、今後さらに拡販していきたい」と佐藤社長は話している。